メンテナンスコンソールを使用する
Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/config/concept_what_functionality_maintenance_console_provides.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

メンテナンスコンソールを使用する . . . 1
- Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールについて . . . 1
- Active IQ Unified Manager のメンテナンスユーザーについて . . . 1
- Active IQ Unified Manager における診断ユーザー機能 . . . 1
- Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールにアクセスする . . . 2
- Active IQ Unified Manager の vSphere VM コンソールを使用してメンテナンスコンソールにアクセスする . . . 2
- メンテナンス コンソールのメニュー . . . 3
  - Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールメニューについて . . . 3
  - Active IQ Unified Manager のネットワーク設定メニュー . . . 4
  - Active IQ Unified Manager のシステム構成メニューを使用する . . . 5
  - Active IQ Unified Manager のサポートと診断メニューを使用する . . . 7
  - Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールの追加メニューオプションについて . . . 7
- Active IQ Unified Manager で Windows のメンテナンスユーザーのパスワードを変更する . . . 9
- Linux システムでの Active IQ Unified Manager の umadmin パスワードの変更 . . . 9
- Active IQ Unified Manager がHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するポートを変更する . . . 9
- Active IQ Unified Manager へのネットワークインターフェイスの追加 . . . 10
- Active IQ Unified Manager でクライアント証明書を再生成する . . . 11
- ディスク容量を追加する . . . 11
  - Active IQ Unified Manager データベースディレクトリへのディスク容量の追加 . . . 12
  - Active IQ Unified Manager で Linux ホスト上のデータディレクトリにスペースを追加する . . . 12
  - Active IQ Unified Manager を使用して VMware 仮想マシンのデータディスクに空き容量を追加する . . . 14
  - Active IQ Unified Manager で Windows サーバーの論理ドライブに空き容量を追加する . . . 14

メンテナンスコンソールを使用する

Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールについて

Unified Managerメンテナンスコンソールを使用すると、Unified Managerシステムの設定を管理し、問題の発生を防ぐために必要な変更を行うことができます。

Unified Managerをインストールしたオペレーティングシステムに応じて、メンテナンスコンソールには次の機能があります。

- 仮想アプライアンスに関する問題、特にUnified Manager Webインターフェイスにアクセスできないときのトラブルシューティングを行います。
- Unified Managerの新しいバージョンへのアップグレード
- テクニカル サポートに送信するサポート バンドルの生成
- ネットワークの設定
- メンテナンス ユーザのパスワードの変更
- パフォーマンス統計の送信を目的とした外部データ プロバイダへの接続
- パフォーマンス データ収集の内部変更
- 以前にバックアップしたバージョンから、Unified Managerのデータベースと構成設定を復元します。

Active IQ Unified Manager のメンテナンスユーザーについて

Unified ManagerをRed Hat Enterprise Linuxシステムにインストールする場合、インストール時にメンテナンス ユーザが作成されます。メンテナンス用ユーザー名は「`umadmin`」ユーザーです。メンテナンスユーザーはWeb UIでアプリケーション管理者ロールを持ち、そのユーザーは後続のユーザーを作成してロールを割り当てることができます。

メンテナンス ユーザまたはumadminユーザは、Unified Managerのメンテナンス コンソールにもアクセスできます。

Active IQ Unified Manager における診断ユーザー機能

診断アクセスの目的は、テクニカル サポートからトラブルシューティングのサポートを受けられるようにすることです。このため、テクニカル サポートから指示された場合にのみ診断アクセスを使用する必要があります。

診断ユーザは、テクニカル サポートからの指示を受けて、トラブルシューティングの目的でOSレベルのコマンドを実行できます。

Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールにアクセスする

Unified Managerユーザ インターフェイスが動作状態でない場合、またはこのユーザ インターフェイスにない機能を実行する必要がある場合は、メンテナンス コンソールにアクセスしてUnified Managerシステムを管理できます。

開始する前に

Unified Managerをインストールして設定しておく必要があります。

15分間操作しないと、メンテナンス コンソールからログアウトされます。

VMwareにインストールした場合、VMwareコンソールからメンテナンス ユーザとしてすでにログインしているときは、Secure Shellを使用して同時にログインできません。

手順

1. 次の手順に従ってメンテナンス コンソールにアクセスします。

このオペレーティングシステムでは...	次の手順に従ってください。
VMware	a. Secure Shellを使用して、Unified Manager仮想アプライアンスのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名に接続します。 b. メンテナンス ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。
Linux	a. Secure Shellを使用して、Unified ManagerシステムのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名に接続します。 b. メンテナンス ユーザ（umadmin）の名前とパスワードでシステムにログインします。 c. コマンド `maintenance_console`を入力し、Enterキーを押します。
Windows	a. 管理者のクレデンシャルでUnified Managerシステムにログインします。 b. Windows管理者としてPowerShellを起動します。 c. コマンド `maintenance_console`を入力し、Enterキーを押します。

Unified Managerメンテナンス コンソール メニューが表示されます。

Active IQ Unified Manager の vSphere VM コンソールを使用してメンテナンスコンソールにアクセスする

Unified Managerユーザ インターフェイスが動作状態でない場合、またはこのユーザ イ

ンターフェイスにない機能を実行する必要がある場合は、メンテナンス コンソールにアクセスして仮想アプライアンスを再設定できます。

開始する前に

- メンテナンス ユーザである必要があります。
- メンテナンス コンソールにアクセスするには、仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。

手順

1. vSphere Clientで、Unified Manager仮想アプライアンスを見つけます。
2. 「コンソール」タブをクリックします。
3. コンソール ウィンドウ内をクリックしてログインします。
4. ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。

   15分間操作しないと、メンテナンス コンソールからログアウトされます。

メンテナンス コンソールのメニュー

Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールメニューについて

メンテナンスコンソールは、Unified Manager サーバーの特殊機能や構成設定を維持・管理するための様々なメニューで構成されています。

Unified Managerをインストールしたオペレーティングシステムによって、メンテナンスコンソールは以下のメニューで構成されます：

- Upgrade Unified Manager（VMwareのみ）
- Network Configuration（VMwareのみ）
- System Configuration（VMwareのみ）
  a. Support/Diagnostics
  b. Reset Server Certificate
  c. クライアント証明書を再生成する
  d. Backup Restore
  e. External Data Provider
  f. Performance Polling Interval Configuration
  g. SAML認証の無効化
  h. View/Change Application Ports
  i. Debug Log Configuration
  j. Control access to MySQL port 3306
  k. 終了

特定のメニューオプションにアクセスするには、リストから番号を選択します。たとえば、バックアップとリストアの場合は、_4_を選択します。

Active IQ Unified Manager のネットワーク設定メニュー

[Network Configuration]メニューでは、ネットワーク設定を管理することができます。このメニューは、Unified Managerユーザ インターフェイスを使用できない場合に使用してください。

Unified ManagerがRed Hat Enterprise LinuxまたはMicrosoft Windowsにインストールされている場合は、このメニューを使用できません。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- **IP**アドレス設定の表示

  仮想アプライアンスの現在のネットワーク設定が表示されます（IPアドレス、ネットワーク、ブロードキャスト アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバなど）。

- **IP**アドレス設定の変更

  仮想アプライアンスのネットワーク設定（IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーなど）を変更できます。メンテナンスコンソールを使用してネットワーク設定をDHCPから静的ネットワークに変更した場合、ホスト名を編集することはできません。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

- ドメイン名検索設定を表示する

  ホスト名の解決に使用されるドメイン名検索リストが表示されます。

- ドメイン名検索設定を変更する

  ホスト名の解決時に検索対象とするドメイン名を変更できます。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

- 静的ルートの表示

  現在の静的ネットワーク ルートが表示されます。

- 静的ルートの変更

  静的ネットワークルートの追加または削除を可能にします。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

  - ルートを追加

    静的ルートを追加することができます。

  - ルートを削除

    静的ルートを削除することができます。

  - 戻る

    メインメニューに戻ります。

◦ 終了

メンテナンス コンソールを終了します。

- ネットワークインターフェースを無効にする

  利用可能なネットワークインターフェースをすべて無効にします。利用可能なネットワークインターフェースが1つしかない場合、それを無効にすることはできません。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

- ネットワークインターフェースを有効にする

  利用可能なネットワークインターフェースを有効にします。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

- 変更をコミットする

  仮想アプライアンスのネットワーク設定に加えた変更を適用します。変更を有効にするには、必ずこのオプションを選択します。そうしないと、変更は適用されません。

- ホストにpingを送信

  IPアドレスの変更やDNS設定を確認するために、ターゲット ホストにpingを実行します。

- 初期設定に戻す

  すべての設定を工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。変更を反映させるには、*変更を確定する*を選択する必要があります。

- 戻る

  メインメニューに戻ります。

- 終了

  メンテナンス コンソールを終了します。

Active IQ Unified Manager のシステム構成メニューを使用する

[System Configuration]メニューには、仮想アプライアンスを管理するためのさまざまなオプションが用意されています（サーバ ステータスの表示、仮想マシンのリブートとシャットダウンなど）。

Unified ManagerがLinuxまたはMicrosoft Windowsシステムにインストールされている場合、このメニューからは「`Restore from a Unified Manager Backup`」オプションのみが利用可能です。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- サーバーの状態を表示する

現在のサーバ ステータスを表示します。ステータスには「Running」と「Not Running」があります。

サーバが実行されていない場合は、テクニカル サポートに連絡することを推奨します。

- 仮想マシンの再起動

  すべてのサービスを停止して仮想マシンをリブートします。リブート後、仮想マシンとサービスが再起動します。

- 仮想マシンのシャットダウン

  すべてのサービスを停止して仮想マシンをシャットダウンします。

  このオプションは、仮想マシン コンソールからのみ選択できます。

- **<logged in user>** ユーザーパスワードの変更

  現在ログインしているユーザ（メンテナンス ユーザ）のパスワードを変更します。

- データディスクサイズを増やす

  仮想マシンのデータ ディスク（ディスク3）のサイズを拡張します。

- スワップディスクサイズを増やす

  仮想マシンのスワップ ディスク（ディスク2）のサイズを拡張します。

- タイムゾーンを変更する

  タイムゾーンを現在の場所に変更します。

- **NTP**サーバーを変更する

  NTPサーバの設定を変更します（IPアドレスや完全修飾ドメイン名（FQDN）など）。

- **NTP**サービスの変更

  `ntp`と `systemd-timesyncd`のサービスを切り替えます。

- **Unified Manager**バックアップからの復元

  以前にバックアップしたバージョンから、Unified Managerのデータベースと構成設定を復元します。

- サーバー証明書のリセット

  サーバ セキュリティ証明書をリセットします。

- ホスト名の変更

  仮想アプライアンスがインストールされているホストの名前を変更します。

- 戻る

  [System Configuration]メニューを終了して[Main Menu]に戻ります。

- 終了

  メンテナンス コンソール メニューを終了します。

Active IQ Unified Manager のサポートと診断メニューを使用する

「サポートと診断」メニューを使用すると、トラブルシューティングの支援を受けるためにテクニカルサポートに送信できるサポートバンドルを作成できます。

表示されるメニュー オプションは次のとおりです。

- ライトサポートバンドルを生成

  30日分のログと構成データベース レコードのみを含む軽量なサポート バンドル（パフォーマンス データ、取得記録ファイル、サーバ ヒープ ダンプは含まれません）を作成できます。

- サポートバンドルを生成する

  診断ユーザーのホームディレクトリに、診断情報を含む完全なサポートバンドル（7-Zipファイル）を作成できます。システムがインターネットに接続されている場合は、サポートバンドルをNetAppにアップロードすることもできます。

  ファイルには、AutoSupportメッセージによって生成された情報、Unified Managerデータベースの内容、Unified Managerサーバーの内部に関する詳細データ、および通常はAutoSupportメッセージや軽量サポートバンドルに含まれない詳細レベルのログが含まれています。

Active IQ Unified Manager のメンテナンスコンソールの追加メニューオプションについて

以下のメニューオプションを使用すると、Unified Managerサーバー上でさまざまな管理タスクを実行できます。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- サーバー証明書のリセット

  HTTPSサーバ証明書を再生成します。

  Unified Manager GUIでサーバー証明書を再生成するには、**General** > **HTTPS Certificates** > *Regenerate HTTPS Certificate*をクリックします。

- **SAML**認証を無効にする

  SAML認証を無効にすることで、IDプロバイダー（IdP）がUnified Manager GUIにアクセスするユーザーに対してサインオン認証を提供しなくなります。このコンソールオプションは通常、IdPサーバーまたはSAML構成の問題により、ユーザーがUnified Manager GUIにアクセスできない場合に使用されます。

- 外部データプロバイダー

  Unified Managerを外部データプロバイダーに接続するためのオプションを提供します。接続が確立されると、パフォーマンスデータが外部サーバーに送信され、ストレージパフォーマンスの専門家がサードパーティ製ソフトウェアを使用してパフォーマンス指標をグラフ化できるようになります。以下のオプションが表示されます：

  - サーバー構成の表示--外部データプロバイダの現在の接続と構成設定を表示します。
  - サーバー接続の追加/変更--外部データプロバイダの新しい接続設定を入力したり、既存の設定を変更したりできます。
  - サーバー構成の変更--外部データプロバイダーの新しい構成設定を入力したり、既存の設定を変更したりできます。
  - サーバー接続の削除--外部データプロバイダへの接続を削除します。

    接続を削除すると、Unified Managerは外部サーバから切断されます。

- バックアップ復元

  詳細については、"バックアップとリストア処理の管理"のトピックを参照してください。

- パフォーマンスポーリング間隔設定

  Unified Managerがクラスターからパフォーマンス統計データを収集する頻度を設定するオプションを提供します。デフォルトの収集間隔は5分です。

  大規模なクラスタからの収集が時間内に完了しない場合は、この間隔を10分または15分に変更できます。

- アプリケーションポートの表示/変更

  Unified ManagerがHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するデフォルトのポートを変更するためのオプションを提供します（セキュリティ上必要である場合）。デフォルトのポートは、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。

- **MySQL**ポート**3306**へのアクセスを制御します

  ホストからデフォルトのMySQLポート3306へのアクセスを制御します。セキュリティ上の理由から、Linux、Windows、およびVMware vSphereシステムへのUnified Managerの新規インストール中は、このポートを使用したアクセスはローカル ホストに限定されます。このオプションを使用すると、このポートの認識をローカル ホストとリモート ホストの間で切り替えることができます。つまり、このオプションをローカル ホストに対してのみ有効にすると、リモート ホストでポート3306を使用できるようにすることができます。逆に、すべてのホストに対して有効にすると、このポートのアクセスをローカル ホストに限定できます。アップグレード前にリモート ホストでアクセスが有効になっていれば、アップグレード後もその設定が維持されます。ポートの認識を切り替えたら、Windowsシステムのファイアウォール設定を確認し、MySQLポート3306へのアクセスが制限されている場合はファイアウォールの設定を無効にする必要があります。

- 終了

  メンテナンス コンソール メニューを終了します。

Active IQ Unified Manager で Windows のメンテナンスユーザーのパスワードを変更する

必要に応じて、Unified Managerのメンテナンスユーザーのパスワードを変更できます。

手順

1. Unified Manager の Web UI ログインページから、「パスワードを忘れた場合」をクリックします。

   パスワードをリセットするユーザの名前を入力するように求めるページが表示されます。

2. ユーザー名を入力して、送信 をクリックします。

   入力したユーザ名に定義されているEメール アドレスに、パスワードをリセットするためのリンクが記載されたEメールが送信されます。

3. メールに記載されている「パスワードをリセット」リンクをクリックして、新しいパスワードを設定してください。
4. ウェブUIに戻り、新しいパスワードを使用してUnified Managerにログインしてください。

Linux システムでの Active IQ Unified Manager の umadmin パスワードの変更

セキュリティ上の理由から、インストール プロセスの完了後すぐにUnified Managerのumadminユーザのデフォルト パスワードを変更する必要があります。このパスワードは、必要に応じてあとからいつでも再変更できます。

開始する前に

- Unified ManagerがRed Hat Enterprise Linuxシステムにインストールされている必要があります。
- Unified Managerがインストールされているlinuxシステムのrootユーザのクレデンシャルが必要です。

手順

1. Unified Managerが実行されているLinuxシステムにrootユーザとしてログインします。
2. umadminパスワードを変更します。

   ```
   passwd umadmin
   ```

   umadminユーザの新しいパスワードを入力するように求められます。

Active IQ Unified Manager がHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するポートを変更する

Unified ManagerがHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するデフォルトのポートは、インストール後に変更できます（セキュリティ上必要な場合）。デフォルトのポートは、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。

開始する前に

Unified Managerサーバのメンテナンス コンソールへのログインが許可されているユーザIDとパスワードが必要です。

> Mozilla FirefoxまたはGoogle Chromeブラウザでは、安全でないとみなされるポートがいくつかあります。HTTPトラフィックとHTTPSトラフィックに新しいポート番号を割り当てる前にブラウザで確認してください。安全でないポートを選択すると、システムにアクセスできなくなる可能性があります。その場合、カスタマー サポートに連絡して解決を依頼する必要があります。

ポートを変更するとUnified Managerのインスタンスが自動的に再起動されるため、システムを短時間停止しても問題のないタイミングであることを確認してください。

1. SSHを使用して、Unified Managerホストにメンテナンス ユーザとしてログインします。

   Unified Managerメンテナンス コンソールのプロンプトが表示されます。

2. 「アプリケーションポートの表示/変更」というラベルの付いたメニューオプションの番号を入力し、Enter キーを押してください。
3. プロンプトが表示されたら、メンテナンス ユーザのパスワードをもう一度入力します。
4. HTTPポートとHTTPSポートの新しいポート番号を入力し、Enterキーを押します。

   ポート番号を空白のままにした場合は、プロトコルのデフォルトのポートが割り当てられます。

   ポートを変更してUnified Managerをすぐに再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. ポートを変更して Unified Manager を再起動するには、**y** と入力してください。
6. メンテナンス コンソールを終了します。

この変更後、ユーザーはUnified Manager Web UIにアクセスするために、URLに新しいポート番号を含める必要があります。例：https://host.company.com:1234、https://12.13.14.15:1122、または+https://[2001:db8:0:1]:2123+。

Active IQ Unified Manager へのネットワークインターフェイスの追加

ネットワーク トラフィックを分離する必要がある場合は、新しいネットワーク インターフェイスを追加できます。

開始する前に

vSphereを使用して仮想アプライアンスにネットワーク インターフェイスを追加しておく必要があります。

仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。

> Unified ManagerがRed Hat Enterprise LinuxまたはMicrosoft Windowsにインストールされている場合は、この処理を実行できません。

手順

1. vSphereコンソールのメインメニューで、システム構成 > *オペレーティングシステムの再起動*を選択します。

   再起動すると、新たに追加したネットワーク インターフェイスがメンテナンス コンソールで検出されます。

2. メンテナンス コンソールにアクセスします。
3. **Network Configuration** > **Enable Network Interface** を選択します。
4. 新しいネットワークインターフェースを選択し、**Enter** キーを押してください。

   eth1 を選択して **Enter** を押してください。

5. ネットワークインターフェースを有効にするには、**y** と入力してください。
6. ネットワークの設定を入力します。

   静的インターフェイスを使用している場合、またはDHCPが検出されない場合は、ネットワークの設定を入力するよう求められます。

   ネットワーク設定を入力すると、自動的に*ネットワーク設定*メニューに戻ります。

7. 「変更を確定」を選択します。

   ネットワーク インターフェイスを追加するには、変更をコミットする必要があります。

Active IQ Unified Manager でクライアント証明書を再生成する

メンテナンス コンソールを使用して、Unified Managerクライアント証明書を再生成できます。証明書の有効期間は5年間に延長されています。

手順

1. メンテナンス ユーザとしてログインします。
2. **Regenerate Client Certificate** を選択して、**Enter** キーを押します。
3. システムが認証を求めた場合は、必要な認証情報を入力してください。
4. *再生成の確認*を選択し、*Enter*を押します。
5. 証明書が再生成されたら、Unified Managerサービスを再起動して変更を適用してください。
6. 更新された証明書を確認するには、ONTAPにログインします。クライアント証明書のステータスと有効性ステータスを確認します。

関連情報 "System ManagerでONTAP証明書を管理する"

ディスク容量を追加する

Active IQ Unified Manager データベースディレクトリへのディスク容量の追加

ONTAPシステムから収集された健全性とパフォーマンスのデータは、すべてUnified Managerデータベース ディレクトリに格納されます。状況によっては、データベース ディレクトリのサイズの拡張が必要になることがあります。

たとえば、Unified Managerで多数のクラスタからデータを収集している場合、各クラスタに大量のノードがあると、データベース ディレクトリがいっぱいになることがあります。データベース ディレクトリの容量の95%に達すると警告イベントが生成され、95%に達すると重大イベントが生成されます。

ディレクトリの容量の95%に達すると、クラスタからデータが収集されなくなります。

データ ディレクトリの容量を追加する手順は、Unified ManagerをVMware ESXiサーバ、Red Hatサーバ、Microsoft Windowsサーバのいずれで実行しているかによって異なります。

Active IQ Unified Manager で Linux ホスト上のデータディレクトリにスペースを追加する

Linux ホストを最初にセットアップして Unified Manager をインストールした際に、Unified Manager をサポートするための `/opt/netapp/data`ディレクトリに割り当てたディスク容量が不足していた場合は、インストール後に `/opt/netapp/data`ディレクトリのディスク容量を増やすことでディスク容量を追加できます。

開始する前に

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxマシンへのrootユーザ アクセスが必要です。

データ ディレクトリのサイズを拡張する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

手順

1. ディスク スペースを追加するLinuxマシンにrootユーザとしてログインします。
2. Unified Managerサービスと関連するMySQLソフトウェアを次の順序で停止します。

   ```
   systemctl stop ocieau ocie mysqld
   ```

3. 一時的なバックアップフォルダ（例： `/backup-data`）を作成します。現在の `/opt/netapp/data`ディレクトリ内のデータを格納するのに十分なディスク容量を確保してください。
4. 既存の `/opt/netapp/data`ディレクトリのコンテンツと権限構成を、バックアップデータディレクトリにコピーします：

   ```
   cp -arp /opt/netapp/data/* /backup-data
   ```

5. SE Linuxが有効になっている場合は、次の手順を実行します。

   a. 既存の `/opt/netapp/data`フォルダのフォルダの SE Linux タイプを取得します：

      ```
      se_type= ls -Z /opt/netapp/data | awk '{print $4}' | awk -F: '{print $3}' |
      head -1
      ```

次のような情報が返されます。

```
echo $se_type
mysqld_db_t
```

a. chconコマンドを実行して、バックアップ ディレクトリに対してSE Linuxタイプを設定します。

```
chcon -R --type=mysqld_db_t /backup-data
```

6. `/opt/netapp/data`ディレクトリの内容を削除します：
   a. `cd /opt/netapp/data`
   b. `rm -rf *`
7. `/opt/netapp/data`ディレクトリのサイズを、LVMコマンドを使用するか、ディスクを追加することで、最低150 GBまで拡張します。

> ディスクから `/opt/netapp/data`を作成した場合は、 `/opt/netapp/data`をNFSまたはCIFS共有としてマウントしないでください。この場合、ディスク領域を拡張しようとすると、 `resize`や `extend`などの一部のLVMコマンドが期待どおりに動作しない可能性があるためです。

8. `/opt/netapp/data`ディレクトリの所有者（mysql）とグループ（root）が変更されていないことを確認します：

```
ls -ltr /opt/netapp/ | grep data
```

次のような情報が返されます。

```
drwxr-xr-x.  17 mysql root  4096 Aug 28 13:08 data
```

9. SE Linux が有効になっている場合は、 `/opt/netapp/data`ディレクトリのコンテキストがまだmysqld_db_t に設定されていることを確認してください。
   a. `touch /opt/netapp/data/abc`
   b. `ls -Z /opt/netapp/data/abc`

次のような情報が返されます。

```
-rw-r--r--. root root unconfined_u:object_r:mysqld_db_t:s0
/opt/netapp/data/abc
```

10. ファイルabcを削除して、この無駄なファイルがデータベース エラーの原因にならないようにします。
11. backup-data から拡張された `/opt/netapp/data`ディレクトリに内容をコピーして戻します：

```
cp -arp /backup-data/* /opt/netapp/data/
```

12. SE Linuxが有効になっている場合は、次のコマンドを実行します。

    ```
    chcon -R --type=mysqld_db_t /opt/netapp/data
    ```

13. MySQLサービスを開始します。

    ```
    systemctl start mysqld
    ```

14. MySQLサービスが開始されたら、ocieサービスとocieauサービスを次の順序で開始します。

    ```
    systemctl start ocie ocieau
    ```

15. すべてのサービスが起動したら、バックアップフォルダを削除します `/backup-data`：

    ```
    rm -rf /backup-data
    ```

Active IQ Unified Manager を使用して VMware 仮想マシンのデータディスクに空き容量を追加する

Unified Managerデータベースのデータ ディスクのスペースを増やす必要がある場合は、インストール後にUnified Managerメンテナンス コンソールを使用して容量を追加できます。

開始する前に

- vSphere Clientへのアクセス権が必要です。
- 仮想マシンにスナップショットがローカルに格納されていない必要があります。
- メンテナンス ユーザのクレデンシャルが必要です。

仮想ディスクのサイズを拡張する前に仮想マシンをバックアップすることを推奨します。

手順

1. vSphereクライアントで、Unified Manager仮想マシンを選択し、データにディスク容量を追加します `disk 3`。詳細については、VMwareのドキュメントを参照してください。

   まれなケースでは、Unified Managerの展開において、データディスクとして「`Hard Disk 3`」ではなく「`Hard Disk 2`」が使用されることがあります。お使いの環境でこの問題が発生している場合は、容量の大きい方のディスクの容量を増やしてください。データディスクは、常に他のディスクよりも容量が大きくなります。

2. vSphere クライアントで、Unified Manager 仮想マシンを選択し、「コンソール」タブを選択します。
3. コンソール ウィンドウ内をクリックし、ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。
4. メインメニューで、*システム設定*オプションの番号を入力します。
5. システム構成メニューで、*データディスクサイズの増加*オプションの番号を入力します。

Active IQ Unified Manager で Windows サーバーの論理ドライブに空き容量を追加する

Unified Managerデータベースのディスク スペースを増やす必要がある場合は、Unified

Managerがインストールされている論理ドライブに容量を追加できます。

開始する前に

Windowsの管理者権限が必要です。

ディスク スペースを追加する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

手順

1. ディスク スペースを追加するWindowsサーバに管理者としてログインします。
2. スペースを追加する方法に応じて、該当する手順を実行します。

オプション	説明
物理サーバで、Unified Managerサーバがインストールされている論理ドライブに容量を追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 "Extend a Basic Volume"
物理サーバで、ハード ディスク ドライブを追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 "Adding Hard Disk Drives"
仮想マシンで、ディスク パーティションのサイズを拡張する。	VMwareの次のトピックの手順に従います。 "Increasing the size of a disk partition"

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。